

【第2回 島根県地震津波防災対策検討委員会】議事要旨

日 時 : 平成28年3月30日(水) 13:30~16:30

場 所 : サンラポーむらくも 2F 彩雲

出席者 : 河原委員長、汪副委員長、浅田委員、岩井委員、高橋委員、遠田委員、林委員、村上委員、森委員、横田委員

議 事 : (1) 本委員会での検討事項とスケジュール
(2) 第1回委員会意見への対応
(3) 地域海岸の本設定
(4) 最大クラスの対象津波群(L2)の検討
(5) 設計津波水位(L1)の検討

■主な意見等

- 大すべり域右側、大すべり域左側などの記載があるが、右、左の定義を教えて欲しい。
- 隣県との整合はとれている。
- 津波外力を踏まえ、地域海岸を15に本設定した結果は妥当と判断する。
- 地域海岸の設定は、この区分で良いと思うが、客観的な説明も必要であり、地域海岸毎に平均的な水深や勾配などの数値を示した方がよい。
- L2検討における、基礎式や計算方法、土地利用と粗度の対応について条件表に簡潔に記載すること。また、計算時間については減衰していることを確認しておくこと。
- どの断層がどの程度の範囲で最大となっているか把握しているか。把握していないのであれば、占有率を整理するとその地域海岸に対する危険な断層がみえてくる。
- 大すべり域を考慮し、多くのケースを検討する必要性について、委員会の場で議論したことが重要である。
- L2の検討結果は、最終的にはハザードマップ等に使い、ハード対策に使わないと理解しているので、選定した断層は多いと思うがこれで良いと考える。
- 選定した断層を多くして細かくやればよいというわけではない。少しの差なら許容するという考えもある。
- 地域海岸4の15ケースは多いという意見があるが、逆にこれくらいあったほうが良いと思う。地域海岸4は海岸地形が他のエリアと異なっている。日本海中部地震では多古鼻で4mだったがそれ以外では低かった事例がある。これくらい細かく見て説明したほうが住民への説得力がある。
- WEBサイトに掲載する際には、浸水域を透過表示するなど地形を確認できるようにしてほしい。

- 浸水想定図公表イメージの留意事項の上から 5 項目目と下から 2 項目目は、わかりやすい文章にしてほしい。
- 河川遡上の検討対象外の河川は、示してほしい。ハザードマップでは危険側を示すことが良い。
- 沖から来襲した津波は小河川ではすぐに溢れるので、今回の河川遡上の取り扱いで良い。大きい河川の方が、河川遡上が重要となる。
- 越流破堤はあったか。越流した場所がわかればそれを示すと良い。
- L1 と防波堤の高さの比較の際に、河川堤防も示すと良い。
- L1、L2 は水位ではなく、発生頻度として使っている。一般の方にもわかるような説明が必要
- 日本海東縁部での地震による島根県の震度は。揺れによって避難するのが良いと思う。
- 地震時は気象庁から情報が来る。揺れが継続する場合は地震規模が大きいので注意が必要。このことを伝える必要がある。